

研究発表要旨

(1) 在宅重症心身障害児(者)を持つ介護者のニーズと支援

—医療処置の有無との関連から—

川崎医療福祉大学大学院 保健看護学専攻 修士課程 ○矢吹紗百合

川崎医療福祉大学 保健看護学科 三徳 和子

旭川荘療育センター 児童院地域療育センター 村下志保子

旭川荘療育センター 児童院院長・

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学科 井上 英雄

旭川荘理事長・川崎医療福祉大学 医療福祉学科 末光 茂

【要旨】

【目的】

在宅重症心身障害児(者)の医療処置の有無別に介護者のニーズを明らかにし、今後の支援のあり方を探ることを目的とした。

【方法】

岡山県重症心身障害児(者)通園事業所に指定された全7施設のうち、同意を得られた3施設のサービスを利用している、在宅重症心身障害児(者)の介護者447名を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。

回答のあった228名(回収率51.0%)のうち、医療処置の有無について回答がない者を除いた223名を分析対象とした。重症心身障害児(者)の年齢を0～6歳、7～18歳、19歳以上の3区分とし、医療処置の有無別にクロス集計、 χ^2 検定を行った。統計分析ソフトはSPSS15.0Jを使用した。

【結果】

主な介護者は母親の75.3%で、家族構成は核家族が68.1%と多かった。

重症心身障害児(者)の、年齢区分が0～6歳は31人(医療処置有21人)、7～18歳は63人(医療処置有47人)、19歳以上は129人(医療処置有83

人)であった。重症心身障害児(者)に男女差はなく、身体障害の主たる疾患は脳性まひ27.4%、てんかん16.1%、てんかんと脳性まひを合併している者は4.0%であった。身体障害の主たる疾患が重度になるにつれ、医療処置有の者の割合が大きく($p<0.01$)、身体活動が重度なるにつれ、医療処置有の者の割合が大きかった($p<0.01$)。

年齢区分による医療的ケアの主たる内容は、0～6歳では吸引、体位変換、気管切開部ケアの順であり、7～18歳は吸引、胃ろう、浣腸の順で、19歳以上は浣腸、吸引、体位変換の順であった。年齢が高くなるにつれて、医療的ケアの必要な割合が低くなっていた。

医療処置有の者はすべての年齢区分で夜間ケアの割合が大きかった($p<0.01$)。介護者の夜間の平均睡眠時間は、0～6歳の医療処置有では、睡眠時間が有意に短かく($p<0.05$)、18歳以下の介護者の約85%が6時間未満の睡眠時間であった。

【考察】

重症心身障害児(者)における介護では、18歳未満で医療処置有の者が、それ以外の者よりも支援の必要性が高いことが示唆された。